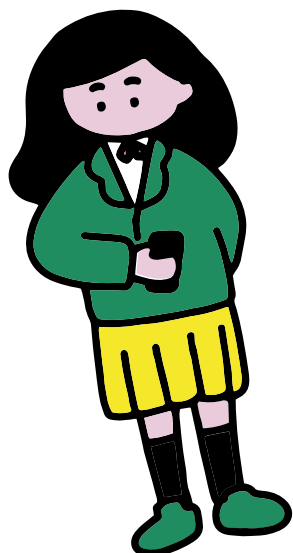
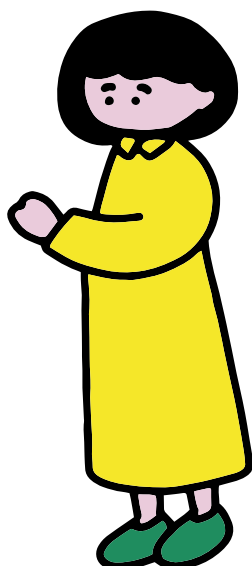
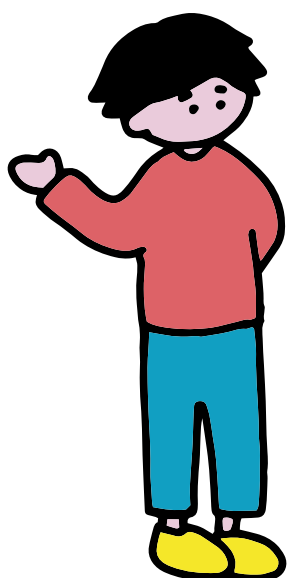
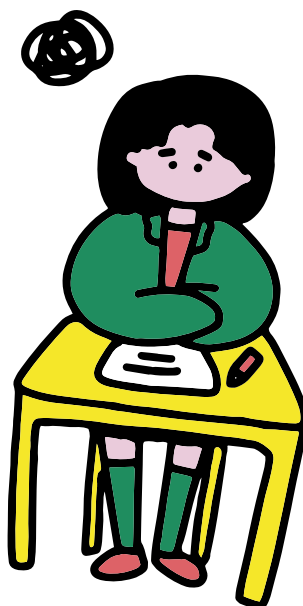


石川県加賀市
若年女性困りごと実態把握調査事業



加賀市15-25歳の
女性の暮らしと生活の
困りごと
アンケート
調査報告書



2025年3月
加賀市・公益財団法人あくるめ

もくじ

1. 調査概要	1
1-1 調査目的	1
1-2 調査の設計にあたって	1
1-3 アンケート調査の概要	2
(1) 調査対象	
(2) 調査方法	
(3) 調査期間	
(4) 調査項目	
(5) 有効回答	
1-4 実施体制	2
(1) 監修・助言	
(2) 実施主体	
2. アンケートの分析	3
2-1 アンケート回答者の概要	3
アンケートの分析の表示について	
回答者の年齢	
回答者の職業	
2-2 アンケートの回答と分析	4
自分自身が安心できる場所について	4
不安に思っていること	5
自分自身の困りごと・悩みごと	9
悩みの相談について	10
加賀市の暮らしやすさに関して	12
自由回答について	15

1. 調査概要

1-1 調査目的

加賀市において女性の困りごとを対象とする調査は過去実施されておらず、実際に支援が必要な若年女性の定量的な数値やその困りごとを知る必要があった。そこで、本調査は実際に「困難な」状況にある若年女性の困りごとを把握し、今後の加賀市の施策をさらに推進することを目的とする。

1-2 調査の設計にあたって

本調査の設計にあたり、「困難な」状況を次のように想定した。

- ・ 人間関係の問題を抱えている（家族との不和、孤立、居場所がない、味方がいない等）
- ・ 経済基盤が脆弱である（経済的な貧困、不安定な雇用形態、教育やスキルの不足等）
- ・ 暴力やハラスメントの被害を受けている（虐待、いじめ、DV、セクハラ、性暴力等）

また、加賀市特有の問題として、移動手段の欠如や大都市と比べて居場所がないと感じるのかなどを示唆するような設問も設けた。

1-3 アンケート調査の概要

(1) 調査対象

加賀市に居住する15歳以上～25歳以下の女性1519人（ハガキ配布対象）

2024年4月1日時点の住民基本台帳の生年月日が1999年4月2日～2008年3月31日の女性2455人を母集団とし、年代により抽出数を表1の通り調整の上、無作為抽出。

回答数を増やすため、ハガキ配布対象者以外にも回答可能とした。

【表1】アンケートの送付数

生年月日	対象数	送付数	%
平成11年4月2日～12月31日	174	154	100.00%
平成12年1月1日～12月31日	272	228	100.00%
平成13年1月1日～12月31日	292	249	100.00%
平成14年1月1日～12月31日	289	169	68.70%
平成15年1月1日～12月31日	293	118	47.60%
平成16年1月1日～12月31日	288	120	48.80%
平成17年1月1日～12月31日	261	120	49.00%
平成18年1月1日～12月31日	251	150	61.00%
平成19年1月1日～12月31日	279	158	58.50%
平成20年1月1日～3月31日	56	53	100.00%
	2455	1519	

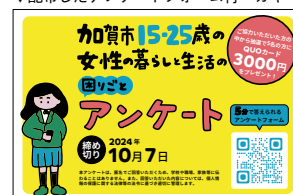
(2) 調査方法

①ハガキにて郵送配布 1519枚配布
ハガキにQRコードを添付し、そこからウェブ回答

②加賀市内の高校にチラシを配布
チラシにQRコードを添付し、そこからウェブ回答
大聖寺230枚 / 大聖寺実業92枚 / 加賀70枚 / 聖城13枚 合計405枚

③アビオシティ、図書館、高校など市内でポスター掲示
ポスターにQRコードを添付し、そこからウェブ回答

▼配布したアンケートフォーム付ハガキ



▼配布したチラシおよび掲示ポスター



(3) 調査期間

2024年9月20日（金）～2024年10月7日（月）

(4) 調査項目

- ・不安に思っていることについて（将来や進路のこと／生活費のこと）
- ・相談先について（これまでの相談の有無）
- ・困りごとについて（ひとりぼっち／いやがらせを受けている）
- ・加賀市と都会の比較について（移動のしやすさについて／助け合いの有無など）

(5) 有効回答

290人（加賀市外に住む37人や対象年齢外5人、重複回答1件を含まない数）

1-4 実施体制

(1) 助言

本調査の設計及び分析については、1名の有識者による助言・協力を得て実施した。

眞鍋 知子教授 | 金沢大学 融合研究域融合科学系

(2) 実施主体

アンケート実施 | 加賀市

アンケート実施協力・分析 | 公益財団法人あくるめ

2. アンケートの分析

2-1 アンケート回答者の概要

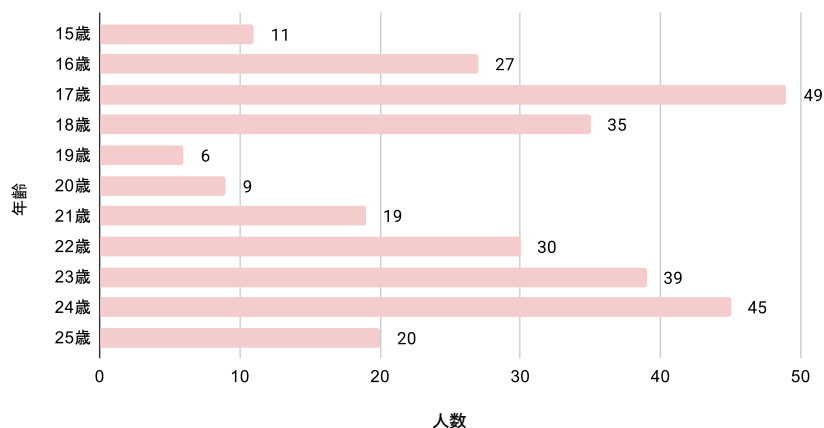
アンケートの分析の表示について

小数点第二位以下は四捨五入表示で統一している。

アンケートの職業を「その他」を選択した人で、フリーター、アルバイト、主婦、無職等を選択した人は「社会人」に統一し、22歳の留学中は「大学生（専門等含む）」とした。

回答者の年齢

回答者の年齢は、17歳が最も多く49人（16.8%）で24歳が45人（16.1%）、23歳が39人（13.4%）の順で続く。



【図1】回答者の年齢と人数

回答者の職業

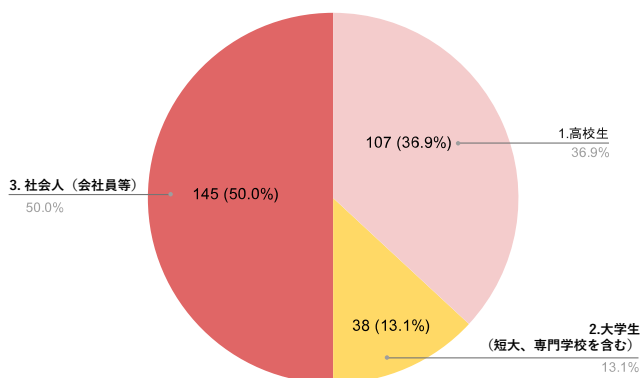
回答者の職業としては、

高校生 107人：36.9%

大学生（短大・専門含む） 38人：13.1%

社会人 145人：50.0%

加賀市には大学がないが、職業で「大学生（短大、専門学校を含む）」を選択した人は38人（13.1%）であった。



【図2】回答者の職業

2-2 アンケートの回答と分析

自分自身が安心できる場所について

若年女性にとって「安心できる居場所」を把握するため、「あなたが安心できる場所はどこか」という質問を設けた。「自分の家」や「学校」などの選択肢を示し、複数回答も可とした。

Q1 あなたが安心（ほっと）できる場所はどこですか（いくつでも選択可）

- ① 自分の家
- ② 自分の部屋
- ③ 祖父母や親せきの家
- ④ 友人、先輩、後輩の家
- ⑤ 交際相手の家
- ⑥ 学校、職場
- ⑦ 習い事
- ⑧ アルバイト先
- ⑨ カフェなどの行きつけのお店
- ⑩ インターネット掲示板やSNS、オンラインゲーム
- ⑪ 安心できる場所はない
- ⑫ その他（ ）

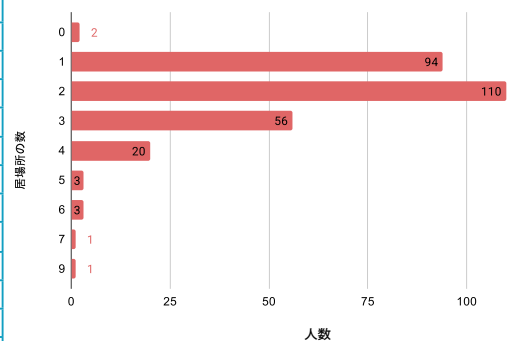
【表 2】Q1 加賀市の若年女性の安心できる場所

N=290

	件数	%
① 自分の家	236	81.4%
② 自分の部屋	181	62.4%
③ 祖父母や親せきの家	55	19.0%
④ 友人、先輩、後輩の家	23	7.9%
⑤ 交際相手の家	40	13.8%
⑥ 学校、職場	16	5.5%
⑦ 習い事	8	2.8%
⑧ アルバイト先	4	1.4%
⑨ カフェなどの行きつけのお店	28	9.7%
⑩ インターネット掲示板やSNS、オンラインゲーム	20	6.9%
⑪ 安心できる場所はない	2	0.7%
⑫ その他（ ）	6	2.1%
合計	616	

その他（原文ママ）：

1 人になれる場所、お店／家の外／自然の中／実家／図書館／推し関連の場所



【図 3】居場所の数

290 人のうち、236 人（81.4%）が「①自分の家」、181 人（62.4%）が「②自分の部屋」を選択していた。そのうち 134 人（46.2%）は、「①自分の家」と「②自分の部屋」どちらも選択しているが、47 人（16.2%）は、「②自分の部屋」のみ選択していた。これは、「①自分の家」の中であっても「②自分の部屋」以外では安心できない何らかの理由があると推測できるが、今回の調査ではそこまで踏み込んでおらず、その理由や背景は把握できていない。

7 人（2.4%）は「①自分の家」「②自分の部屋」のどちらも選んでいない。これは、自宅にいても安らげない、安心できないということである。更に、2 人（0.7%）のみであったが「⑪安心できる場所がない」を選択していた。

なお、「⑩インターネット掲示板やSNS、オンラインゲーム」を選んだ人は 20 人（6.9%）であった。そのうち「⑩インターネット掲示板やSNS、オンラインゲーム」のみを選んだ人はおらず、その他の安心できる場所として「①自分の家」を選択していない人は 5 人（1.7%）であった。（5 人いずれも「②自分の部屋」を選択していた。）

居場所の数も集計したところ、居場所の数の平均は、2.1 個であった。最も多い人で、9 個（「⑩インターネット掲示板やSNS、オンラインゲーム」を除くすべて）であった。

不安に思っていること

若年女性自身が不安に思っていること（将来のことや友人関係など）について把握する問いである。質問に当たっては、不安の指数を5段階評価とした。また、該当しない人がある可能性のある質問がいくつかあったので、5段階評価と、「自分にはあてはまらない」という回答も用意した。

Q2 今、あなたにとって不安だと思っていることについて、a~iのそれぞれについて、あてはまるレベルにチェックしてください。

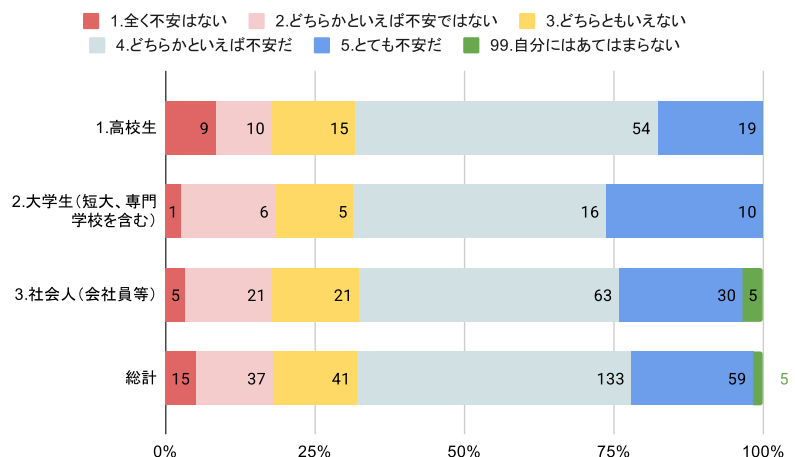
	1. 全く不安はない	2. どちらかという不安ではない	3. どちらともいえない	4. どちらかという不安だ	5. とても不安だ	99. 自分にはあてはまらない
a. 将来や進路のこと	1	2	3	4	5	99
b. 学校の勉強のこと	1	2	3	4	5	99
c. 友達などの対人関係のこと	1	2	3	4	5	99
d. 家庭のこと	1	2	3	4	5	99
e. 交際相手のこと	1	2	3	4	5	99
f. 生活費や学費のこと	1	2	3	4	5	99
g. アルバイトや仕事のこと	1	2	3	4	5	99
h. 自分の病気や体調のこと	1	2	3	4	5	99
i. 相談相手や頼れる人がいないこと	1	2	3	4	5	99

この項目については、職業別に分析を行う。

a. 将来や進路のこと

全体では「5. とても不安だ」と「4. どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると192人（66.2%）であり、将来のことに不安を持っている人は過半数を超える。

高校生と大学生、社会人すべての職業で不安に思っている人の割合が高かった。

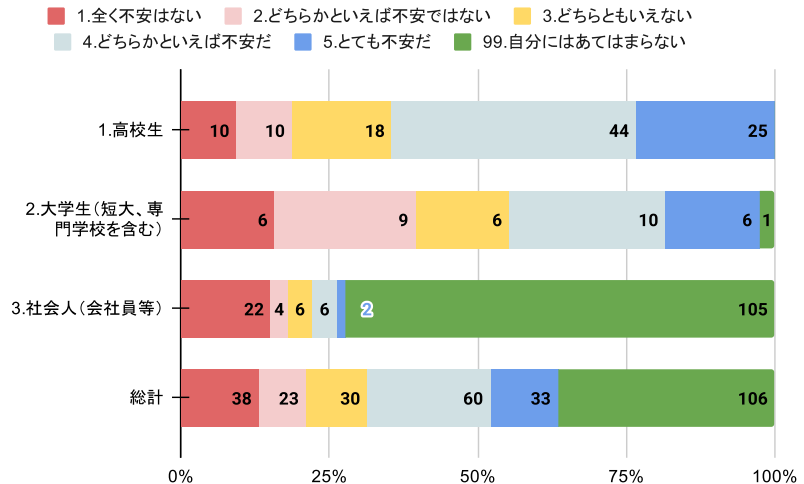


【図4】将来や進路のこと

b. 学校の勉強のこと

高校生と大学生は不安に思っている人の割合が高かった。社会人は「99. 自分にはあてはまらない」を選択した人が105人（72.4%）であった。

高校生は「5. とても不安だ」と「4. どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると69人（64.5%）と過半数を超える。

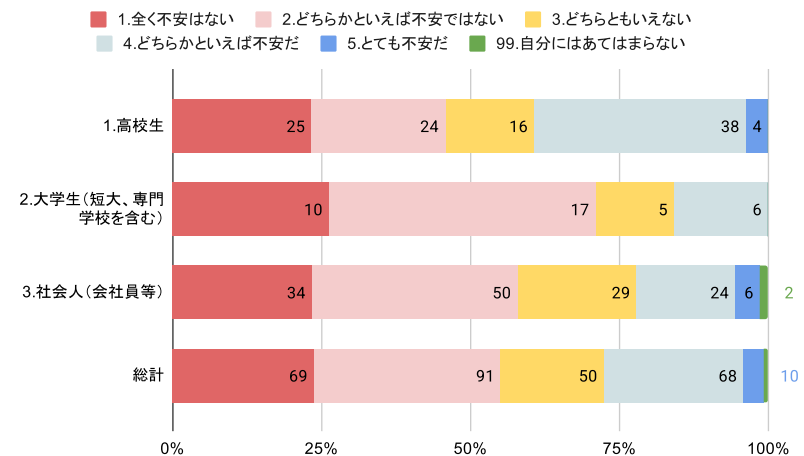


【図5】学校の勉強のこと

c. 友達などの対人関係のこと

全体では「1. 全く不安がない」と「2. どちらかといえば不安ではない」を選んだ人を合わせると160人（55.2%）と過半数を超える。

高校生は「5. とても不安だ」と「4. どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると42人（39.3%）で、他の職業よりも割合が高かった。自由記述も合わせると、友人関係に不安を抱える人の多くは「ずっと仲の良かった子がいるけど、あんまりこのこと合わないかもって思っていてどうすればいいかなって悩んでいる。」などが挙げられていた。

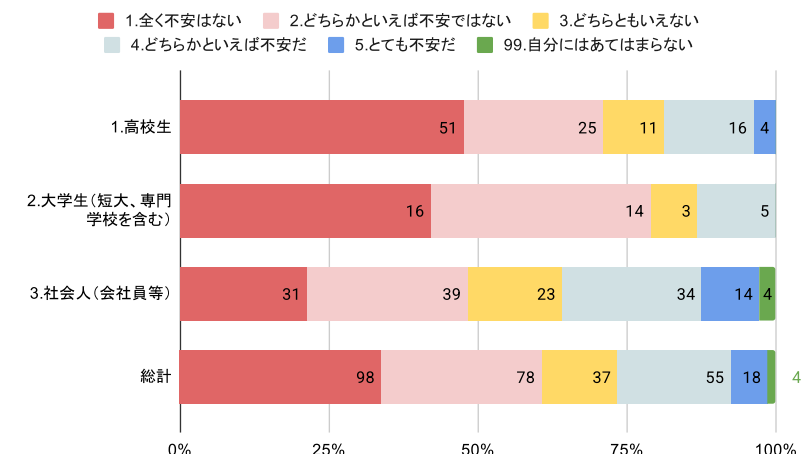


【図6】友達などの対人関係のこと

d. 家庭のこと

全体では「1. 全く不安がない」と「2. どちらかといえば不安ではない」を選んだ人を合わせると176人（60.7%）と過半数を超える。

一方で、社会人は「5. とても不安だ」と「4. どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると48人（33.1%）であり、他の職業よりも割合が高かった。

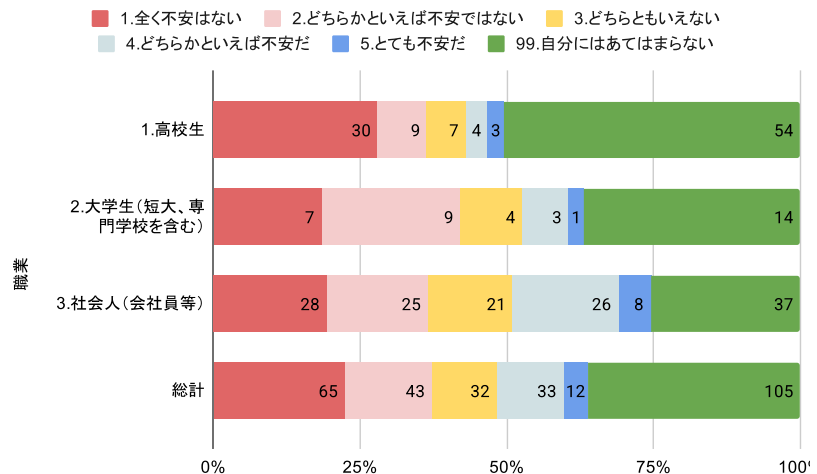


【図7】家庭のこと

e. 交際相手のこと

全体では「99.自分にはあてはまらない」を選んだ人が105人（36.2%）であった。

社会人は「5.とても不安だ」と「4.どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると34人（23.4%）と、他の職業よりも割合が高かった。



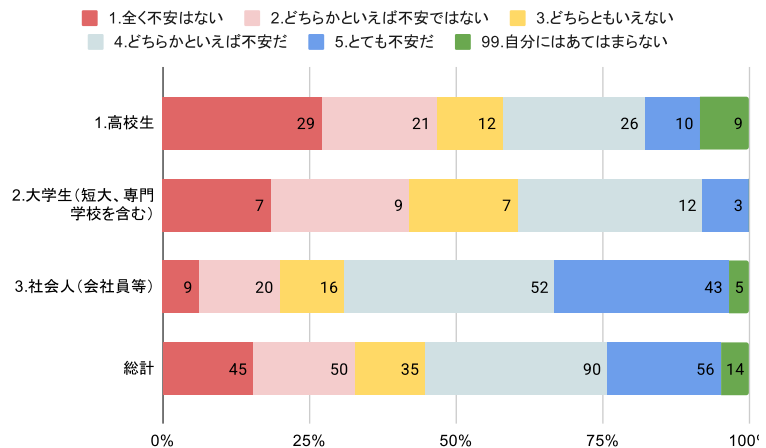
【図8】交際相手のこと

f. 生活費や学費のこと

全体では「5.とても不安だ」と「4.どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると146人（50.3%）であった。

とりわけ社会人は「5.とても不安だ」と「4.どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると95人（65.5%）であった。「5.とても不安だ」を選んだ人は43人（29.7%）であった。

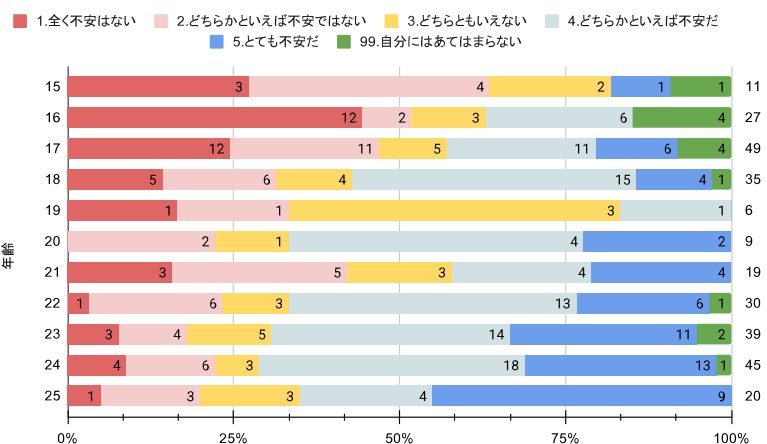
自由記述にも「お金がなく生活に困っている」という声が10人以上寄せられており、金銭的な点で困っている深刻度が高い人があることが見受けられる。



【図9】生活費や学費のこと

年齢別でみると、18歳、20歳、22歳、23歳、24歳、25歳では「5.とても不安だ」と「4.どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると過半数を超える。

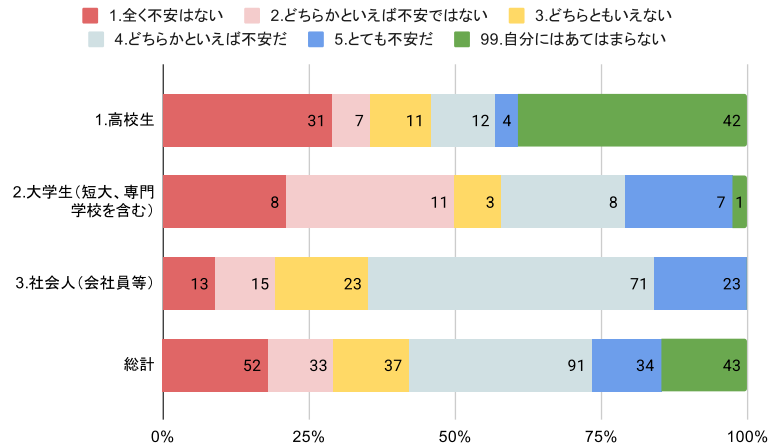
社会人になりたての人のみならず、働きはじめて数年経った人も金銭的な不安を抱えていることが推測される。



【図10】生活費や学費のこと（年齢別）

g. アルバイトや仕事のこと

社会人は「5. とても不安だ」と「4. どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると94人(64.8%)と他の職業より割合が高かった。

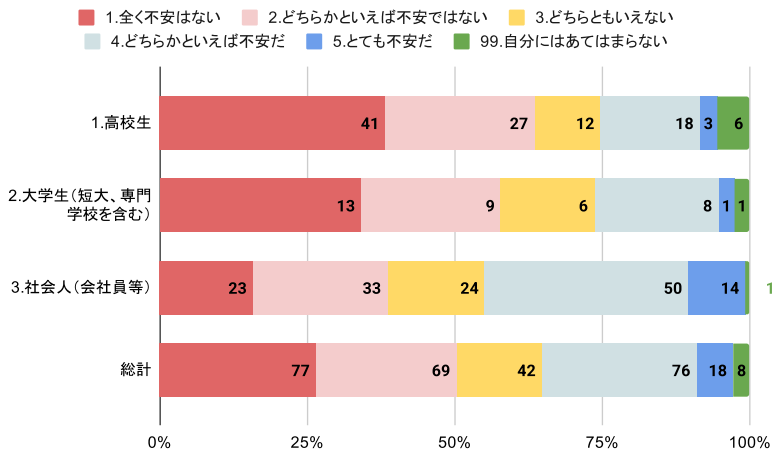


【図 11】アルバイトや仕事のこと

h. 自分の病気や体調のこと

全体では「1. 全く不安がない」と「2. どちらかといえば不安ではない」を選んだ人を合わせると146人(50.3%)であった。

一方で、社会人は「5. とても不安だ」と「4. どちらかといえば不安だ」を選んだ人を合わせると64人(44.1%)と他の職業より割合が高かった。

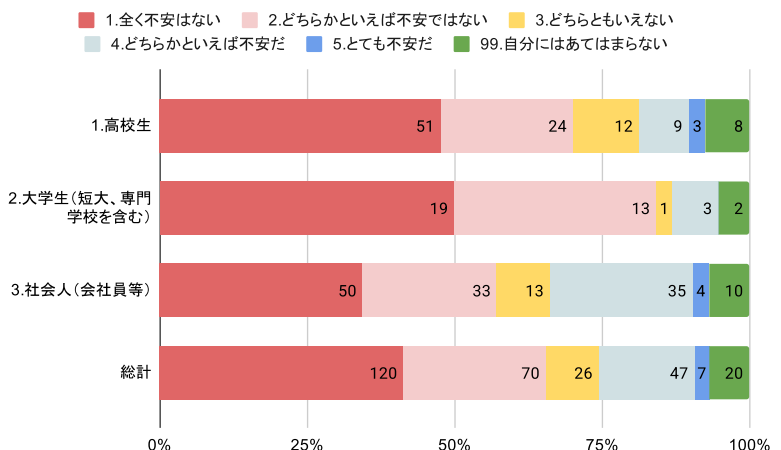


【図 12】自分の病気や体調のこと

i. 相談相手や頼れる人がいないこと

全体では「1. 全く不安がない」と「2. どちらかといえば不安ではない」を選んだ人を合わせると190人(65.5%)と割合が高かった。

一方で、「5. とても不安だ」を選んだ人は7人(2.4%)おり、こういった人たちに支援が届くことは重要である。



【図 13】相談相手や頼れる人がいないこと

自身の困りごと・悩みごと

若年女性自身が困っていること（暴力や孤独感等）について把握する問である。質問に当たっては、過去を含め「身近な人から暴力を受けている」や「人りぼっちだと感じる」などの選択肢を示し、複数回答も可とした。

Q3 あなたの困っていること、悩んでいることの中に次のようなことはありますか（過去を含めて、いくつでも）

- ① 身近な人から殴られるなどの身体的な暴力を受けている
- ② 身近な人から心無い言動により心を傷つけられている
（大声で怒鳴られる、従うように強要される、長時間無視される、など）
- ③ いじめを受けている
- ④ 性に関していやな思い出がある
- ⑤ 生活に必要なお金に困ることがある
- ⑥ 独りぼっちだと感じることもある
- ⑦ 特にない
- ⑧ その他（ ）

困りごとや悩みがあるを選択した（選択肢を1項目以上選択した）人は116人（40.0%）であった。そのうち35人（12.1%）が複数選択していた。

例えば、1人の回答者が「身近な人から心無い言動により心を傷つけられている」と「独りぼっちだと感じる」を選択するなど、若年女性の抱える悩みが複合化、多様化、複雑化していることがうかがえる。

一方、174人（60.0%）が困りごとや悩みごとは「特にない」を選択した。

困りごとや悩みがあるを選択した116人の困りごとの種類別の件数は以下であった。

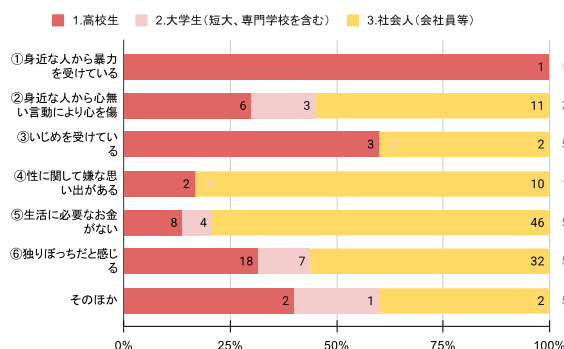
【表3】困りごとの件数

N=290

	件数	%
① 身近な人から殴られるなどの身体的な暴力を受けている	1	0.3%
② 身近な人から心無い言動により心を傷つけられている	20	6.9%
③ いじめを受けている	5	1.7%
④ 性に関していやな思い出がある	12	4.1%
⑤ 生活に必要なお金がない	58	20.0%
⑥ 独りぼっちだと感じる	57	19.7%
⑦ 特にない	171	59.0%
⑧ その他	5	1.7%
合計	329	

* その他であがっていたもの

家族や自身の病気について／周りの人の過干渉について／職場と家の距離について／友人関係等



【図14】困りごとの職業別割合

回答数は少ないが「①身近な人から殴られるなどの身体的な暴力を受けている」という危機的な状況にある人が1人（0.3%）いる。「②身近な人から心無い言動により心を傷付けられている」は20人（6.9%）いることがわかる。「④性に関していやな思い出がある」は12人（4.1%）であった。

困りごとのなかで最も回答数が多かったのは「⑤生活に必要なお金がない」の58人（20.0%）で、「⑥独りぼっちだと感じる」の57人（19.7%）が次いで多かった。

困りごとの回答を職業別にみてみると、高校生と大学生で最も回答数が多かったのは「⑥独りぼっちだと感じる」である。高校生は18人（16.8%）、大学生は7人（18.4%）であった。

社会人で最も回答数が多かったのは「⑤生活に必要なお金がない」の46人（31.7%）で困りごとのある社会人の約3人に1人が「生活に必要なお金がない」と思っている。

悩みの相談について

困りごとなどの相談や悩みについては誰に相談するのか、また相談しない理由について調査した。

Q4 Q3 のことについて誰かに相談したり、話を聞いてもらったことはありますか。

- ① ある
- ② ない

Q5 Q4 で「1. ある」と回答した方

相談したり、話を聞いてもらったのは誰ですか。すべて選んでください。

- ① 父
- ② 母
- ③ 兄弟・姉妹
- ④ その他親族（祖父母、親戚など）
- ⑤ 学校の先生
- ⑥ 学校の友人、先輩、後輩
- ⑦ スクールカウンセラー
- ⑧ 交際相手
- ⑨ バイト先などの学校以外の友人、先輩、後輩
- ⑩ 職場の同僚、先輩、後輩
- ⑪ カフェや美容室など行きつけの店の店員さん
- ⑫ 市役所や民間団体などの電話相談やSNS相談
- ⑬ インターネット掲示板やSNS上での匿名書込み相談
- ⑭ その他（ ）

Q6 Q5 で「2. ない」と回答した方

相談しなかった理由について最も当てはまるものを選んでください。複数回答可。

- ① 相談するほどの悩みだと思わなかった
- ② 相談しても状況がよくなると思わなかった
- ③ 他の人に知られたくなかった
- ④ 誰に相談したらよいかよくわからなかった
- ⑤ その他（ ）

【表 4】若年女性の相談先

	N=79	
	件数	%
① 父	10	12.7%
② 母	41	51.9%
③ 兄弟・姉妹	22	27.8%
④ その他親族（祖父母、親戚など）	7	8.9%
⑤ 学校の先生	7	8.9%
⑥ 学校の友人、先輩、後輩	30	38.0%
⑦ スクールカウンセラー	3	3.8%
⑧ 交際相手	32	40.5%
⑨ バイト先などの学校以外の友人、先輩、後輩	6	7.6%
⑩ 職場の同僚、先輩、後輩	11	13.9%
⑪ カフェや美容室など行きつけの店の店員さん	0	0
⑫ 市役所や民間団体などの電話相談やSNS相談	3	3.8%
⑬ インターネット掲示板やSNS上での匿名書込み相談	6	7.6%
⑭ その他（ ）	4	5.1%
合計	182	

その他（原文ママ）：警察署／精神科医／旦那／幼なじみ

Q3 で困りごとや悩みがあるを選択した人のうち、悩みや困りごとを誰かに相談したり、話を聞いてもらったことがあるかという問いに対して「①ある」を選択した人は79人（68.1%）と、「②ない」を選択した37人（31.9%）よりも多かった。

「①ある」を選択した79人のうち41人（51.9%）が「②母」を相談相手としている。次いで、「⑧交際相手」「⑥学校の友人・先輩・後輩」「③兄弟・姉妹」の順に多かった。

相談先を「⑬インターネット掲示板やSNS」を選択した人は6人（7.6%）と他の項目より少ない。「⑦スクールカウンセラー」や「⑫市役所や民間団体などの電話相談やSNS相談」といった公式な相談窓口の場を選択した人がどちらも3人（3.8%）と低いことから、相談先を知らないことやハードルが高いことが推測される。

「②ない」を選択した37人（31.9%）の相談しなかった理由については、「②相談しても状況がよくなると思わなかった」が最も多く、「③他の人に知られたくなかった」「①相談するほどの悩みだと思わなかった」の順で続く。

【表5】相談しなかった理由

N=37

	件数	%
①相談するほどの悩みだと思わなかった	10	27.0%
②相談しても状況がよくなると思わなかった	14	37.8%
③他の人に知られたくなかった	12	32.4%
④誰に相談したらよいかよくわからなかった	5	13.5%
⑤その他（ ）	1	2.7%
合計	42	-

その他（原文ママ）：
相談しても聞いてもらえなかったので、聞いてくれないなら知らせる必要もない

「①相談するほどの悩みだと思わなかった」を選択した人は10人（27.0%）であった。本人の認識と相違して、実はその悩みが深刻なものだったり緊急性が高かったりする場合もあるのではないかと懸念される。

「②相談しても人がよくなると思わなかった」を選択をした人は、若年女性自身が現状に対して諦めを感じ、受け入れている様子が見ええる。

「③他の人に知られたくなかった」については、匿名性や心理的安全性が担保された状態で相談を聞く必要があることがわかる。

「④誰に相談したらよいかわからなかった」を選択した5人（32.4%）の悩みは、「独りぼっちだと感じることもある」と「生活に必要なお金に困ることがある」であった。

「⑤その他」では、「相談しても話を聞いてもらえなかった」という回答があった。

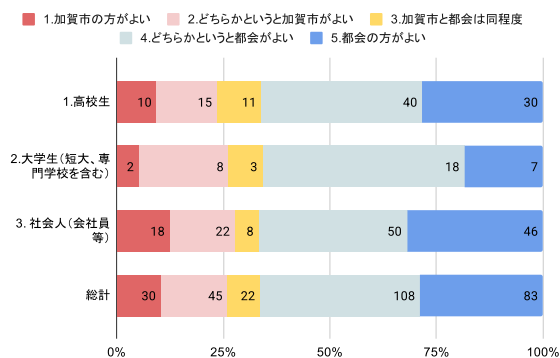
加賀市の暮らしやすさに関して

加賀市の暮らしやすさに関して、大都市と比べて、どのように思っているのか暮らしやすさの指数を5段階評価とした。

Q7 加賀市と大都市（東京や大阪）を比べて、a～nのそれぞれのキーワードについて、あなたが考えにあてはまるレベルにチェックしてください。

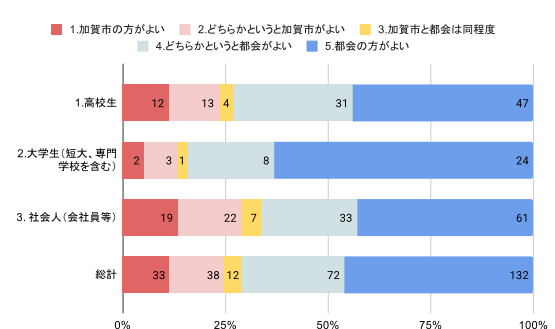
	1. 加賀市の方がよい	2. どちらかというと加賀市がよい	3. 加賀市と都会は同程度	4. どちらかというと都会がよい	5. 都会の方がよい
a. 買い物のしやすさ	1	2	3	4	5
b. 移動のしやすさ	1	2	3	4	5
c. 健康の維持のしやすさ	1	2	3	4	5
d. 社会的格差の無さ	1	2	3	4	5
e. 教育レベル	1	2	3	4	5
f. 助け合い	1	2	3	4	5
g. ストレスの無さ	1	2	3	4	5
h. 仕事の魅力	1	2	3	4	5
i. 収入の得やすさ	1	2	3	4	5
j. 経済的格差	1	2	3	4	5
k. 夢の実現のしやすさ	1	2	3	4	5
l. 人間関係	1	2	3	4	5
m. 癒し	1	2	3	4	5
n. 災害への対応や備え	1	2	3	4	5

a. 買い物のしやすさ



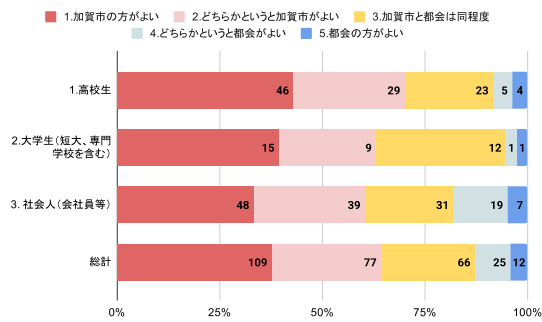
【図 15】買い物のしやすさ

b. 移動のしやすさ



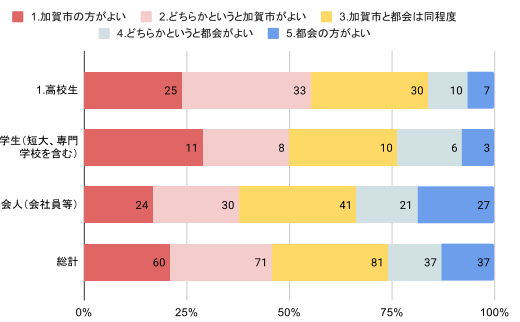
【図 16】移動のしやすさ

c. 健康の維持のしやすさ



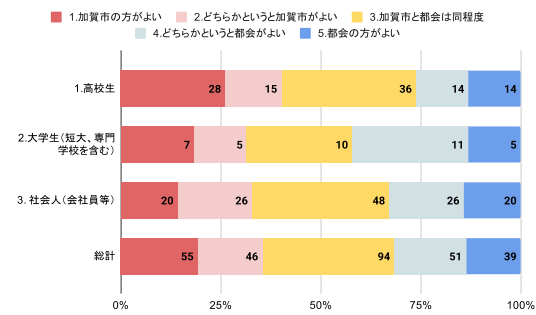
【図 17】健康維持のしやすさ

d. 社会的格差の無さ



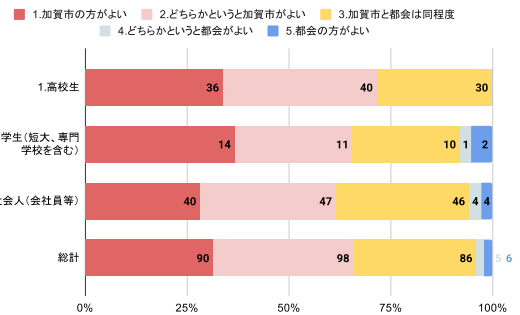
【図 18】社会的格差の無さ

e. 教育レベル



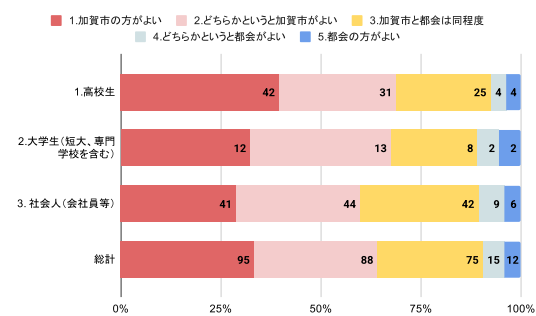
【図 19】教育レベル

f. 助け合い



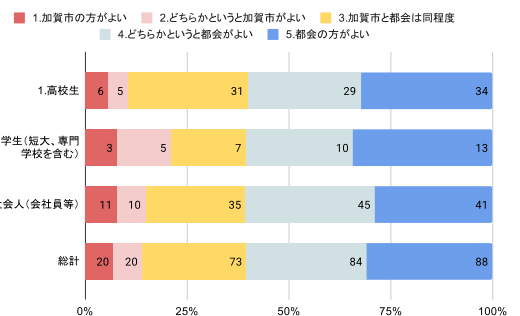
【図 20】助け合い

g. ストレスの無さ



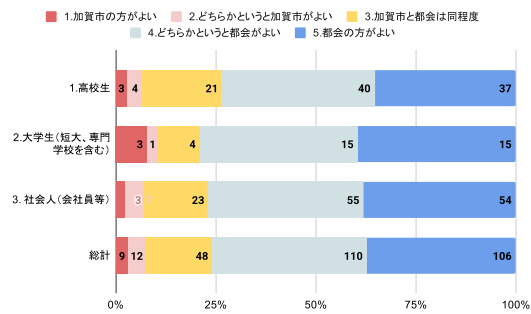
【図 21】ストレスの無さ

h. 仕事の魅力



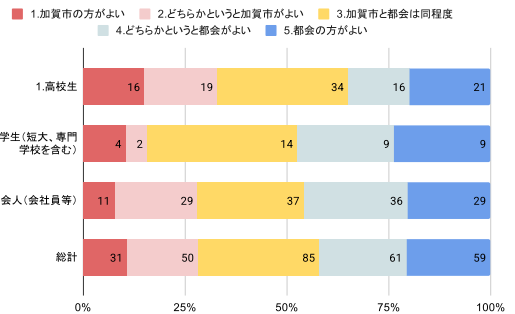
【図 22】仕事の魅力

i. 収入の得やすさ



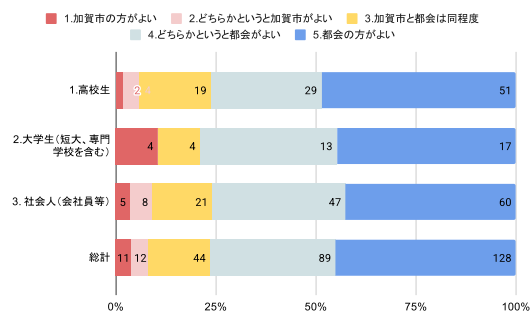
【図 23】収入の得やすさ

j. 経済的格差



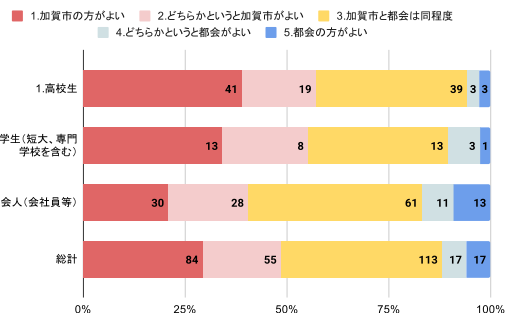
【図 24】経済的格差

k. 夢の実現のしやすさ



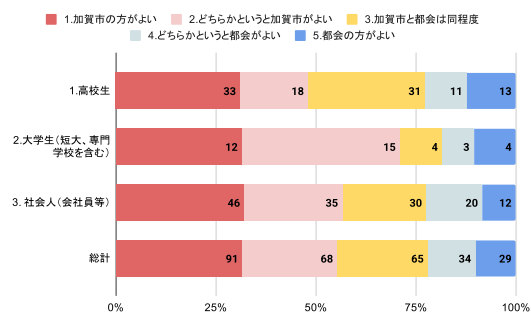
【図 25】夢の実現のしやすさ

l. 人間関係



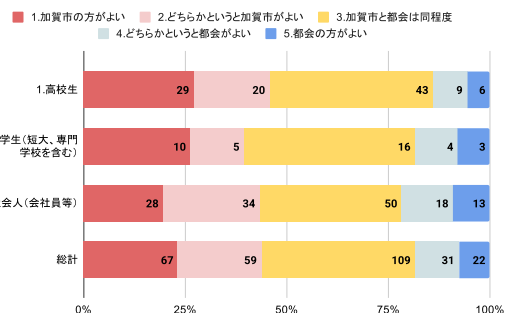
【図 26】人間関係

m. 癒し



【図 27】癒し

n. 災害への対応や備え



【図 28】災害への対応や備え

自由回答について

アンケートに回答した 290 人のうち、自由記述欄には 44 人（15.1%）が現在の状況や困っていることなどを具体的に回答した。

Q8 その他、困っていることがあれば、ご自由にお書きください

仕事に関する魅力が少ない、賃金が少ないという意見【10 件】

- ・ 「進学を県外に考えています。石川県に魅力はありますが 将来につながる仕事を探すことは難しいと考えています。もし石川県に画期的な仕事があれば是非とも U ターンを考えたい。」（18 歳，高校生）
- ・ 「給料は安いのに物価は高くなる一方なのが行きづらい世の中だなーと感じる。」（25 歳，社会人）

交通の便が悪い、移動手段がないという意見【14 件】

- ・ 主に高校生から寄せられているが、社会人からも指摘がある
- ・ バスや電車といった交通がないことが、生活での困りごと全般に関わってくる

といった意見に加え、「移動手段がないため高齢者の免許返納ができるような環境ではない、山中温泉からの移動手段が少ない、母親に持病があるため、実家から出にくく、加賀市外へ転職も難しい、金銭的な面からも将来に希望をもてない。」（25 歳，社会人）というように移動手段がないことが他の困りごとにつながるという意見もあった。

税金が高すぎる、生活が苦しいという意見【10 件】

主に、大学生や社会人（24 歳，25 歳）から上記に関する意見が複数件寄せられている。

- ・ 将来の見通しがつきにくいことで、結婚や子育てなども考えにくいという意見
- ・ 高校生からも金銭的なことから進路に影響がでているという意見

「母子家庭でお金がないと言われる。もっと行きたい私立大学があったが、お金がないからやめてほしいと言われた。奨学金を借りて行くか迷ったが将来のことも不安なので、大学進学は諦めようと考えている。生まれた家庭の事情で、自分の生き方が変わるの是不公平だと思う。それでも家庭は仲が良くってあったかくて帰りたいと思う居場所なので、心の安心はあるから私はまだ幸せなのだと思う。進学して、加賀市に戻ってきたいと思える市になってほしい。」（18 歳，高校生）

遊び場がない、若い男女が出会う場所がないという意見【4 件】

- ・ 「もう少し、商業施設や、コンサート会場のようなものができたら良いなと思います。」（24 歳，社会人）
- ・ 「遊ぶ場所が無さすぎる」（18 歳，高校生）

医療的な環境への拡充を希望する声や家族の看病に関して【3 件】

- ・ 婦人科の病院が少ないという意見（24 歳，社会人）
- ・ 同居している認知症の祖母が心配であるという意見（24 歳，社会人）

また、加賀市外在住だが、自由解答欄で重要な意見が届いていたので紹介する

「加賀市で生まれ、育ちました。大学進学を機に、金沢に住むようになりました。加賀市は住みやすく、車移動もしやすく、平穩に暮らせると思いますが、働きたいと思える所や、若者の遊び所（買い物や食事など）が少なく、結局金沢に住んでいます。それでも、そもそも石川就職はそんなに給与がいいイメージがなく、この先結婚や出産となった時、金銭的な不安や、子育てと仕事の両立が漠然とあります。」（25 歳，社会人）

石川県加賀市若年女性困りごと実態把握調査事業

R6 地域女性活躍推進交付金事業かが絆・つながりサポート 2024

発行 | 2025 年 3 月

調査・編集・発行 | 加賀市役所 総務部・行政まちづくり課男女共同参画
〒 922-8622 石川県加賀市大聖寺南町二 41 番地
TEL : 0761-72-1111

公益財団法人あくるめ

〒 922-0254 石川県加賀市山代温泉 温泉通 24
TEL : 050-3174-208